基礎看護学

構築の考え方とねらい

「基礎看護学」は、基礎分野、専門基礎分野で学習した知識を基に各領域の土台となる。各領域に共通する人間の理解とその人間に共通する看護の視点での思考や技術を学習する科目として位置づける。

わが国は、医療の高度化や生活水準の向上により平均寿命が延伸した一方、少子化が進んでおり社会保障制度にも大きな影響を及ぼしている。また、高齢化の進展に伴う地域包括ケアシステムの促進により、看護のニーズは多様化・複雑化している。このような中で看護の専門職として責務を果たしていくためには、生命の尊厳を守り、対象者の権利を擁護する高い倫理観や、専門的な知識に基づく判断力と看護の実践力を身につけることは必須である。

このような考え方に基づき「基礎看護学」は、人間とは、環境とは、健康とは、看護とは何かという看護学の基礎となる概念と、看護の機能と役割についての全般的理解をもとに、個々の対象の健康問題解決に必要な基礎看護技術を学習し、基本的な実践能力を身につけることをねらいとする。

①看護学概論
②看護倫理
③共通基本技術Ⅰ
④共通基本技術Ⅱ（フィジカルアセスメント）
⑤日常生活を支援する技術Ⅰ
⑥日常生活を支援する技術Ⅱ
⑦日常生活を支援する技術Ⅲ
⑧治療・処置・検査に伴う援助技術
⑨与薬に伴う援助技術
⑩看護研究の基礎
⑪看護を知る実習
⑫日常生活を支援する実習

基礎看護学は学生が初めて看護について学ぶ領域である。そのため、学生の看護に対する興味・関心が持続し、学生が授業に参加していると実感できるように授業を展開していく。看護の概念や倫理を基盤とし、科学的根拠に基づいた知識・技術・態度を習得していく。安全な看護技術や臨床判断能力を考える土台をつくるため、事例を多く取り入れ、シミュレーション等を活用した演習を中心に授業を組み立てる。また、グループワークや患者体験を通し、他者のいろいろな考え方にふれることで多様な価値観を尊重するとともに自己の看護観を養っていく機会とする。